

「自ら学び，豊かに表現し，深い学びに向かう児童の育成」

～新聞を活用しての深い学びの実現～

I 主題設定の理由

昨年度までの研究として，対話的な活動を効果的に取り入れた授業づくりを行ってきた。対話的な活動を効果的に授業に取り入れ，「主体的・対話的で深い学び」に向かう児童の育成を目指し校内研究をすすめることができた。

本年度は全国学力学習状況調査の結果から，本校の課題となる

- ①文と文との意味のつながりを考えながら，接続語を使って内容を分けて書くこと
- ②目的や意図に応じて，自分の考えの理由を明確にし，まとめて書くこと
- ③目的に応じて文章の内容を的確に押さえ，自分の考えを明確にしながらかくことの3つの能力についての力をつけていきたいと考えた。

そこで，今年度は各教科の中で新聞を活用した授業実践（NIE）を行っていく。新指導要領の中でも，読解力や語彙力を養うために新聞を活用することも挙げられている。様々な文章にふれることで，内容を正確に捉える読解力や語彙力，目的に応じて適切に書く記述力などの言語能力の向上を図っていきたい。また，授業だけではなく，学校内でも新聞にふれる機会を増やし，新聞を児童の身近なものとし，活用していきけるようにしていきたい。

II 研究の内容

1 研究授業

各教科において新聞を活用した授業実践を行う。

- | | |
|---------------------------|---------|
| ・第1学年「しらせたいな，見せたいな」 | 高野恵美子教諭 |
| ・第2学年「きせつのことば4 冬がいっぱい」 | 鶴田 望 教諭 |
| ・第3学年「カンジーはかせの音訓かるた」 | 望月 泰祐教諭 |
| ・第4学年「新聞を作ろう」 | 向山 澄 教諭 |
| 指導：山梨県総合教育センター 後藤 由紀 指導主事 | |
| ・第5学年「あなたは，どう考える」 | 今澤比呂樹教諭 |
| ・第6学年「近代国家をめざして」 | 堀井 勝彦教諭 |
| ・はぐくみ「かたかなで書くことば」 | 平塚すみり教諭 |

2 教育課題および学力向上にかかわる取組

- 「新聞を児童の身近なものとし，授業に取り入れたNIEの実践」についての学習会。
講師：山梨県教育庁 義務教育課 富高 勇樹 主査・指導主事
- 特別支援教育についての学習会。
講師：山梨市立日下部小学校 岡 輝彦 教頭
- 校内での研修会を行い，先生方がもっている，知識や情報の共有をする。
- 家庭学習がんばりカード（基本的な生活習慣の観点も入れる）を利用し家庭学習を充実させる。また，自学ノートの展示会を行い，児童の意欲を高める。
- 学級力アンケートを実施しスマイルタイムを活用して学級力を向上させる。

Ⅲ 成果と課題

1 成果

- ・今年度の生活リズムカードは、長期休業明けにチェックができ、学校生活のリズムを児童も家庭も意識でき、子どもの生活を見直せるよい取り組みとなった。
- ・学級力向上の取り組みでは、グラフを見ることにより、クラスで何ができていないのかが視覚的に捉えられ、クラス全体でがんばる方向が確認できた。
- ・特別支援教育の学習会は、特別支援に在籍の子だけではなく、通常級に在籍している子たちにも活かせる話を聞くことができた。
- ・研究1年目だったが、先生方が各教科、学年で新聞をいかしての授業を行うことができた。また、授業の中で新聞を活用しようという意識を持てたことで、新聞の活用をこれからの研究にいかすことができる。
- ・掲示やクイズなどで子どもたちの身近に新聞がある環境を整えることができてきた。子どもたちに興味があることを取り上げたり、見せたいと思うものを選んだりすることで子どもたちが自然と新聞の掲示に目を向ける姿が見られた。これからの発展性や継続性も期待できる内容となった。
- ・「深い学び」を目指す中でも制約が多い1年であったが、新聞活用という明確な切り口で研究に取り組み、停滞しがちな状況の中で、確実な一歩が踏み出せた。
- ・授業実践を行う中で、各学年、各教科で新聞を教材として活用できる場面や扱いやすい教科が明らかとなった。新聞を教科の特性に応じて活用することができた。

2 課題

- ・朝学習で新聞ワークシートに取り組んだが、教師の準備が間に合わずになかなか取り組むことができなかつたことがあるので、準備を少なく効率的にワークに取り組めるよう計画を立てていくとよい。
- ・学級力向上プロジェクトは県の指導重点でもある学級経営の充実にもつながり、学級の課題を自分たちで解決する達成感を持たせることができる。各学期の学校行事に合わせてコンスタントに取り組む、学級力向上のメリットに目を向けて取り組んでいくことが必要。先生方が、お互いに交流する時間をとってみんなで確かめて取り組んでいく。
- ・新聞に関する掲示等が児童へどのような効果を上げているか、確かめながら研究を深めていくとよい。
- ・新聞が子どもたちにとって、なかなか身近なものではないので如何に興味関心を持たせ親しみのあるものにさせるかが難しかった。常日頃から「これは使えるな」という新聞記事を見つけ、子どもたちに提供できる場をこれからも考えていきたい。
- ・校内で考察した学力調査の結果から本校の課題点を明確にし、新聞活用の場面や日々の授業実践において意識的に授業改善を進めていくことが大切である。日々のちょっとした心がけや声かけによって結果は変わってくるのではないかと。

(研究主任 今澤比呂樹)